

Changes in Hepatobiliary Enzyme Abnormality After the Great East Japan Earthquake: The
Fukushima Health Management Survey
東日本大震災後の肝胆道系酵素異常における変化：福島県「県民健康調査」

高橋敦史

福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
福島県立医科大学医学部消化器内科学講座

著者

高橋敦史^{1,2}、大平哲也^{1,3}、上村真由³、細矢光亮^{1,4}、安村誠司^{1,5}、橋本重厚^{1,5}、坂井晃^{1,7}、大津留晶^{1,8}、
佐藤博亮^{1,6}、川崎幸彦^{1,4}、鈴木均^{1,9}、杉浦嘉泰^{1,10}、宍戸裕章^{1,11}、林義満^{1,6}、高橋秀人¹、中野裕紀^{1,3}、小橋元^{1,12}、
小笹晃太郎^{1,13}、大戸斉¹、阿部正文¹、福島県民健康調査グループ

1 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、2 福島県立医科大学医学部消化器内科学講座、3 福島県立医科大学医学部疫学講座、4 福島県立医科大学医学部小児科学講座、5 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、6 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座、7 福島県立医科大学放射線生命科学講座、8 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座、9 福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学講座、10 福島県立医科大学医学部神経内科学講座、11 福島県立医科大学医学部整形外科学講座、12 獨協医科大学公衆衛生学講座、13 放射線影響研究所疫学部

要約

東日本大震災とそれに続く福島第一原子力発電所事故の後、肝胆道系酵素異常の頻度は上昇しましたが、長期的な傾向はいまだに分からないままです。災害後の肝胆道系酵素異常における長期的な傾向および、それらと関連する生活様式の要因を明らかとすることを目的としました。

避難区域 13 市町村の地域住民の方のうち、災害直後(2011-2012 年)と災害 3-4 年後(2013-2014 年)のいずれも特定健診・後期高齢者健診を受診された 40 歳以上の男女 2 万 395 人を対象としました。災害の直後と 3~4 年後の肝胆道系酵素異常における変化と生活様式の要因との関連性を評価しました。肝胆道系酵素異常の割合は、全体で 29.9%から 27.1%に有意に減少しました。また、肝胆道系酵素異常の改善の要因を検討したところ、日常的な身体活動の改善および朝食摂取頻度の改善との関連性が明らかになりました。

掲載情報

「Scientific Reports」(2017)

Takahashi A, Ohira T, Uemura M, Hosoya M, Yasumura S, Hashimoto S, Ohira H, Sakai A, Ohtsuru A, Satoh H, Kawasaki Y, Suzuki H, Sugiura Y, Shishido H, Hayashi Y, Takahashi H, Nakano H, Kobashi G, Ozasa K, Ohto H, Abe M

Scientific Reports. 2017 Apr 6; 7(1):710.